

県コンクリート診断士会(地濃茂雄会長)はこのほど、コンクリート構造物の劣化

ASRに関する現地研修会を実施 劣化メカニズムや擁壁健全性を調査

県コンクリート診断士会

に関する診断技術の向上を目的に「国道8号新潟バイパス擁壁を題材としたASR(アルカリ骨材反応)に関する現地研修会」を新潟市内で開催した。

北陸地方整備局新潟国道事務所協力のもと行われた研修会には会員約30名のほか、新潟国道事務所の職員2名とインターンシップに参加している学生2名も参加した。

会では、近接目視点検のほか、特にひび割れが著しく、コンクリートに“うき”

があると思われるか所については点検ハンマによる打音調査を実施。さら



現地調査の様子

に、ひび割れが著しいか所のかぶりコンクリートをはつり取って内部鉄筋を腐蝕と破断に着目して観察した。また、現地調査後には、鉄筋調査の結果を踏まえ劣化メカニズムと擁壁の健全性に与える影響について参加者全員で議論が交わされた。

研修会の冒頭あいさつした地濃会長は、ASRを起因とするコンクリート構造物の劣化について、「個々の原因追究は様々な場所で行われてきているが最適な対策が確立されているわけではない」と課題を指摘した上で、「幅広い知見や経験を持った会員が新潟の地域特性や気候を考慮し研究することで新潟版の対策が確立されることを期待したい」と力を込めた。

また、本田明副会長は「同会へのニーズや理解が深まってきている」として「技術力を高め、地域のメンテナンスに役立てられよう、引き続き研修会等を実施していく」と抱負を述べた。